

実証申請書

申請者は以下の申請書を提出すること。

【申請者】*

企業名		印
住所	〒	
担当者所属・氏名		
連絡先	TEL :	FAX :
	e-mail :	
技術・製品の名称		

1. 技術の概要*

本技術の目的・仕様 適用できる VOC 種類： 適用できる VOC 濃度範囲： 適用できる処理風量の範囲： 導入に適した業種・事業場： 目標処理性能（出口濃度、処理率、回収率など）： 設置に要する期間：
機器構成と処理フロー図 （局所排気装置との併用関係がわかるように記載すること） （実証対象技術の本体と付属部がわかるように記載すること）
原理 （技術の原理・仕組みを科学的に説明のこと）
特長・セールスポイント（排ガス吸込みの際の工夫・特長についても記載のこと）

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。

【実測時の環境影響測定結果（もしくは設計時に想定している性能）】*

項目	単位	測定値・特性等
CO 濃度	ppm	
NOx 濃度	ppm	
2次生成物発生量 (括弧内は発生物質名)	kg/日	()
排水の発生量と特性	kg/日	
廃棄物の発生量と特性	kg/日	

※上記項目のうち該当するものを記入のこと

【実測時の使用資源関連測定結果（もしくは設計時に想定している性能）】*

項目	単位	測定値等
電力等消費量	kWh/日	
燃料消費量	L/日	
水消費量	L/日	
その他消耗品使用量 (活性炭等の吸着剤含む) (括弧内は消耗品名)	kg/日	()
	kg/日	()
	kg/日	()

※上記項目のうち該当するものを記入のこと

【運転及び維持管理関連】*

管理項目 「VOC処理薬品の補充」 「吸着材・液の交換」 「定期点検」等を記入	一回あたりの 管理時間	管理頻度 月・週・日のいずれかに○ 括弧内に回数を記入
	()分	(月・週・日)に ()回
	()分	(月・週・日)に ()回
	()分	(月・週・日)に ()回
	()分	(月・週・日)に ()回

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。

(2) 基本仕様の概要

項目		記入欄				
実証対象機器名*						
型番						
製造企業名*						
連絡先 (申請者と製造者が異なる場合に記入のこと)	TEL	() -				
	FAX	() -				
	Web アドレス	http://				
	E-mail	@				
サイズ*		W	mm × D	mm × H	mm	
重量 (kg) *						
前処理、後処理の必要性*		なし あり 〔具体的に (排水対策、二次生成物対策、廃触媒等廃棄物対策等)〕				
(触媒使用技術の場合) 耐被毒対応の有無						
機器内における 圧力損失防止の工夫						
付帯設備* (排水処理装置、局所排気装置など)		なし あり 〔具体的に〕				
実証対象機器寿命*						
コスト概算* イニシャルコスト費目例： 設置費、工事費等 ランニングコスト費目例： 消耗品、二次生成物処理費、 電力費等		費目		単価	数量	計
		イニシャルコスト				
		合計				
		ランニングコスト (1日(24時間)あたり)				
		合計				
概算の前提	処理風量	(m ³ /min)				
	稼働時間	(時間/日)				
	VOC 濃度	(ppmC)				

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。

3. 開発状況・納入実績*

もっとも近い番号に○

1. 試作機は作成可能だが、製品化にはいたっていない。
2. 既に製品化しており、製品として出荷できる。
3. 納入実績がある。
4. 対象溶剤・規模の異なる、同じシリーズ（原理）の機器の納入実績がある。

↓
具体的に

[]

4. 公的資金による類似の実証について*

申請技術に関する公的機関による研究開発や実証試験実績の有無等を記入のこと。

5. 技術の先進性等について*

技術の先進性、特許・実用新案等の申請・取得状況、論文発表、受賞歴等を記入のこと。
従来の類似技術と異なる点があれば記入のこと。

6. 中小事業所に適している点等について*

コストや作業環境の改善で配慮している点があれば記入のこと。

7. 資源節減効果や経済的効果について*

VOCの回収・再利用等による資源節減効果や経済的効果を見込める場合には記入のこと。将来的な展望や可能性がある場合にはその旨記入のこと。

8. 製品シリーズについて

対象 VOC・規模が異なるシリーズの機器がある場合、その概要と、特記すべき仕様の変更点を記入のこと。

9. その他（特記すべき事項）

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。

10. 実証試験方法の提案*

貴社の技術を実証するための実証試験方法を、別途提案書として提出して下さい。実証試験方法の提案は、対象技術選定における最重要項目の一つであり、科学的かつ実施可能な方法を提案願います。提案書作成の際には、以下に適宜修正や新項目を追加することも可能です。

実証試験方法概要（以下項目の詳細については、別紙提案書として添付すること）

実証試験実施場所の候補について

（実証試験実施場所のおおよその場所、業種、排ガス発生工程および排ガスフロー、平均的な流入ガス流量、VOC濃度、日あたり稼働時間および変動パターン、処理対象となるVOCの種類、計測位置、新たに必要となる工事や機器類の設置など）

（実地試験（実際の工場などで実施する試験）ではなく、一定の排ガス環境を擬似的に再現した場所（開発現場等）における試験の場合、妥当な再現方法であるかどうかを判断するための情報として以下を記載）

- ①再現する際に想定している業種・VOC排出工程・事業規模
- ②再現事項（VOC濃度、濃度変化パターン、排ガス流量、VOC種類、温度など）およびその根拠（実測データ、文献引用など）
- ③具体的な再現方法（排ガスシミュレーション装置の概要など）
- ④（本試験要領で定めるものとは別のものがある場合）試験期間

実証項目

（性能を確認するために必要な項目、それぞれの項目に関する試料採取方法、試験分析方法など）

実証のための設計性能およびその前提条件や装置の整備状況

（提案する実証試験実施場所で実証試験期間内に発揮し得る能力、これを発揮するための前提条件、装置の整備状況）

試験期間

（環境技術開発者としての作業に対応可能な期間）

申請技術の設置、維持管理のための作業日程、必要な人員等の見込み

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。

【本申請書に添付する書類】

- 実証対象機器の基本仕様書
- 自社による性能試験結果（VOC処理性能だけでなく、処理性能の持続性、VOC処理試験の連続計測データなどもある場合は、それらも添付すること）
- 実証試験実施場所所有者による実証試験の許可文書
- 運転及び維持管理マニュアル
運転及び維持管理マニュアルとは、実証対象機器の運転及び維持管理方法を掲載した文書のことであり、以下の情報等を含むものとする：
 - 実証対象機器の設置方法
 - 運転方法（標準的な運転パターン、所要処理時間等の情報を含む）
 - 維持管理方法
 - トラブルシューティング
 - 運転と環境の最適化

対象溶剤や規模別にシリーズがある場合は、実証を依頼する機器について記載すること。特に*のついた欄は実証対象技術の選定において重要な情報であるため、必ず記入すること。